

母子保健のための地域組織活動の活性化と強化に関する研究 —その1 文献考証から導かれた研究課題—

島内 憲夫*, 小山 修**, 斉藤 進**
小野田 薫***, 市村 久美子****

要約:

「＜健康概念の拡大＞と＜生活の質＞を重視した地域組織活動は可能か」という問題意識に基づき、初年度は「地域組織活動の活性化と強化のための基本原則」を明らかにすることを目的とし、文献考証を行った。その結果、次のような基本原則が明らかになった。

1) 共同性をつくる活動を展開すること 2) 自発性を重んじること 3) 自前主義に徹すること 4) 心触れあう付き合いの場をつくること 5) 不思議な鍵(コミュニティの連帯)をみつけること 6) 根回しと念押しの技術を習得すること。

今後は、特に＜こころ＞と＜生活の質＞を中心とした母子保健に関わる健康問題を地域組織活動を通して解決してゆくための方法を導くために、1) 地域組織活動の活性化のための要因分析と、2) 地域組織活動の強化方法の開発の研究に取り組む予定である。

見出し語: 地域組織活動、健康概念の拡大、生活の質(QOL)

【はじめに】

本研究は、「新しい時代の母子保健を考える
研究会報告」(座長: 平山宗宏—平成元年12月—)
で提案されている「3. 母子保健の基盤整備」
の中の第5項「地域母子保健組織の育成」
を具体化させるための一つの試みである。

我々は、以上の提案を受けて「母子保健のた

めの地域組織活動の活性化と強化に関する研究」
というテーマを設定し、3年間にわたって研究
を行う計画を立てた。今回の報告は、初年度の
報告「その1 文献考証から導かれた研究課題」
である。

*順天堂大学体育学部健康学科

***財団法人 東京顕微鏡院

**社会福祉法人 恩賜財団母子愛育会

****順天堂大学大学院

【1. 母子保健をめぐる問題点】

戦前の日本の母子保健の目標は、乳幼児・妊産婦の死亡率の低下にあった。しかし、戦後の医学のめざましい発達や生活環境の著しい改善によって、これらの問題は克服された。そして日本は、いま少産少死の時代を迎えたのである。それに伴い、新たな問題がクローズアップされてきた。それは、次のような問題である。¹⁾

- (1) 母子の健康をめぐる問題 - 特に <こころ>と<生活の質>を中心に -
- (2) 人生80年時代のスタートとしての出産の意味
- (3) ライフサイクルに対応した母子保健活動のシステム化の問題
- (4) 家族のあり方 - 特に<家族保健機能>の強化の問題 -
- (5) 女性の就労と育児問題 - 特に<父親>の育児参加の問題 -
- (6) 地域母子保健組織活動の活性化と強化の問題 - 特に<住民主体性>の問題 -
- (7) 母子をめぐる保健・医療・福祉・教育の連携と統合の問題

以上のような問題がまず解決されなければ、母子保健の目標である「母性と乳幼児の健康の保持及び増進を図ること」(母子保健法第1条)は不可能であろう。

ともあれ、我々は、このような現代日本の母子保健の問題点を意識しながら、特に「母子保健のための地域組織活動の活性化と強化に関する研究」に取り組むことにした。

【2. 地域組織活動の意味】

「母子保健のための地域組織活動の活性化と強化」について検討する前に、我々が問題とする一般的な「地域組織活動の活性化と強化」の基本原則について明らかにしておきたい。そのために、我々は次のような手順を踏んだ。

- (1) 「地域社会とコミュニティの相違」を明らかにする。
- (2) 「地域組織の意味」について考える。
- (3) 「地域組織活動の活性化と強化の基本原則」を明らかにする。

(1) 地域社会とコミュニティの相違

「地域社会は、地域性を基礎とした、人々の日常的な生活の多くの部門にわたる機能的な相互依存の体系であり、そしてそこで展開する日常的なさまざまな活動の反復と持続性のゆえに、かれらの間にメンバーとしての種々の程度の連帯と綜合を派生しうる基礎的な部分社会である。²⁾」これは、地域社会を一つの社会集団として捉え、その社会集団の特徴を地域性、相互依存性、包括性、日常性および持続性に求め、定義づけたものである。

我々の「地域社会」概念は、基本的にはこの定義に基づいている。しかし、地域組織活動の活性化と強化を問題とする時には、「地域社会」ではなく「コミュニティ」の概念を用いる。

「コミュニティとは、地域社会という生活の場において、市民としての自主性と主体性と責任を自覚した住民によって、共通の地域への帰属意識と共通の目標と役割意識をもって、共通の行動がとられようとするその態度のうちに見出されるものである。特に、生活環境を等しく

し、且つ、それを中心に生活を向上せしめようとする共通利害の方向で一致できる人々が作り上げる地域集団活動の体系がコミュニティの発現形態である。³⁾

この「コミュニティ」の考え方は、1960年代の急激な経済成長によって、地域社会の解体や住民の価値観の混乱等の社会的な歪みが露呈してきたことによって、人間性回復の場や精神的・情緒的な安定を求めて登場してきたものである。1970年代前後には、国・地方自治体によって地域政策の一環として、生活環境条件中心の「コミュニティ」政策が提唱され、1980年代には地域の素材を有効に生かした「地域づくり・まちづくり」へと発展していったのである。

(2) 地域組織の意味

地域組織をどのように理解すればよいのだろうか。多くの理解が可能であるが、我々は、とりあえず次のように理解しておいた。

地域組織とは、「地域社会において複数の人間が一意識的または無意識的に一共同の目的をもって結合したもので、同時にその結合体が一意識的または無意識的に一成員個人に対して、その共同目的達成のために、なんらかの統制力をもっているものである。⁴⁾

(3) 地域組織活動の活性化と強化の基本原則

前述した「地域社会」と「コミュニティ」そして「地域組織」についての考え方を前提として、次のような「地域組織活動の活性化と強化のための基本的な原則」を考えてみた。^{5) 6)}

1) 共同性をつくる活動を展開すること。

なぜなら、コミュニティはそこに住む人々が共に重荷を担いあう諸活動の中から醸成されるからである。

2) 自発性を重んじること。

なぜなら、コミュニティの形成活動は、義理ではなく、喜びをもって行う活動であるからである。

3) 自前主義に徹すること。

なぜなら、ややもすると人々は活動のための資金を他から求めがちだからである。主体的に活動に参加することの意義をより確かなものにするためにも、身銭を切って集めることが大切である。

4) 心触れあう付き合いの場をつくること。

なぜなら、コミュニティの形成活動が、家族・親戚という血縁で結ばれた人間関係を越えて地域での活動となるためには、心触れあう付き合いの場が地域のあらゆるところに存在しなければ不可能だからである。

5) 不思議な鍵（コミュニティの連帯）をみつけること。

なぜなら、人々は、地域での様々な活動を通して不思議な鍵（コミュニティの連帯）を手に入れることができるからである。この鍵は、地域の人々の「心の窓」を開いてくれるものであり、換言すれば地域の人々の生命を維持・発展させてゆくためのエネルギーを与えてくれる「心の泉」なのである。

6) 根回しと念押しの技術を習得すること。

なぜなら、この二つの技術は問題を抱える人々のために資源や支援者を動員したり(根回

し)、問題を抱える人々自身の努力(念押し)を促すために必要だからである。前者は「環境形成」のための技術であり、後者は「自己形成」のための技術である。

【3. 地域組織活動に関する文献の整理】

(1) 文献整理の方法

地域組織活動に関する文献は多くみられるが、我々は主要な「雑誌」と「単行本」を材料として文献考証を試みることにした。

1) 主要雑誌

次の「雑誌」を取り上げ検討した。

- A) 地域活動研究 (1967~1975 109編)
- B) 地域保健 (1973~1987 24編)
- C) 保健婦雑誌 (1959~1989 71編)
- D) 日本公衆衛生雑誌(1955~1989 111編)
- E) 公衆衛生 (1951~1989 99編)
- F) 公衆衛生情報 (1973~1989 77編)

その理由は、以下の通りである。

まず「地域活動研究」によって保健の領域だけでなく地域組織活動の全体に関わる内容を把握することの必要性があったから。

次に「地域保健」と「保健婦雑誌」によって保健の領域での地域組織活動の問題点や課題を明らかにしたかったから。

そして「日本公衆衛生雑誌」と「公衆衛生」によって地域組織活動に対する理論的な裏付けをとり、さらに「公衆衛生情報」によって公衆衛生活動全体の中での地域組織活動のウェイト付けを知りたかったからである。

2) 主要単行本

次の単行本を検討することが適切と思われる。

- A) 青井和夫他著「コミュニティ・アプローチの理論と技法」績文堂 1963
- B) マレー・ロス著(岡村重夫訳)「コミュニティ・オーガニゼーション」全社協 1968
- C) 副田義也著「コミュニティ・オーガニゼーション」誠信書房 1968
- D) 橋本正己著「地域保健活動」医学書院 1968
- E) 橋本正己・三浦文夫編「地域活動論—保健と福祉のコミュニティ・ワーカー」全社協 1973
- F) 橋本正己著「保健活動の動向と課題」医学書院 1975
- G) Community Organization研究会(代表:宮坂忠夫)「保健福祉の領域におけるコミュニティ・オーガニゼーションに関する研究」(第3次報告書)地域社会研究所 1976
- H) 岡田 真著「コミュニティ・ワーク論」大明堂 1981
- I) 丸地信弘編「保健活動<見直し>の理論と実際」医学書院 1981
- J) 松下 祐著「健康問題と住民の組織活動」勁草書房 1981
- K) 奥田道大他著「コミュニティの社会設計」有斐閣 1982
- L) 宮坂忠夫編著「地域保健と住民参加」第一出版 1983
- M) 久常節子著「住民自身のリーダーシップ」勁草書房 1987
- N) 大阪ボランティア協会編「ボランティア」ミネルバ書房 1981

○) 松下 拓著「健康学習とその展開」勁草書房
1990

尚、検討した単行本総数は、43冊である。

(2) 文献考証から得られた主要論点

以上、地域組織活動に関する文献を「雑誌」と「単行本」に分けて検討した。

ここでは、各論文の詳述は割愛し、文献考証によって学んだいくつかの諸点について簡単にまとめ、来年度以降の研究の基礎としたい。

1) 地域組織活動の変遷⁵⁾

戦後から昭和35年の前半までは、既成組織としての「町内会・部落会」の性格規定、とりわけ行政組織、地域権力層との特有の関わり方が主要な点をなした。町内会・部落会の組織モデルの変容と連続をめぐる論議は、第一期以降もつねに繰り返えされつつ、今日に至っている。

昭和35年代の住民運動・活動の生成と展開に注目しつつ、昭和45年の中頃まで、とりわけ既成組織との回路の困難な新住民層が担い手となる組織モデルの可能性が追求された。既成組織の批判検討、そして運動の理念が強調された早い段階では、新しい組織をどう構想し固めるかというよりも、反組織的傾向がつよかった。個人の自発的意志と行動を保障するという意味で、「小集団・サークル」の精神が尊ばれた。反組織主義的小集団の時代といってもよい。

そして、昭和45年以降コミュニティ形成—まちづくりからむ組織モデルが登場し、現在に至っている。その内容をみると運動の起点をもつにせよ、もたないにせよ、従来の住民活動

・運動の一部が、より総合的で継起的なコミュニティ形成運動としての性格を色濃くしてきた。そこでは、個別テーマの拡がり、参加メンバーの多様さだけでなく、地域現場の事情に即して、テーマ相互の関連性、総合性をはかりつつ、より高次のコミュニティ形成—まちづくりにつなげていくことが、求められた。それは、コミュニティの形成は、ある意味で、単発的、一時的な小集団・サークル主義では済まされない側面をもつからに他ならない。

以上のような一般的な地域組織活動の変遷を見据えながら、次項で保健領域での地域組織活動の変遷をみてみよう。

2) 地域保健組織活動をめぐる問題点

A) 地域保健組織活動の変遷^{7) 8)}

ところで、日本の戦後における保健領域での“住民参加”の歴史の中で特に注目すべき点は、戦後まもなくの農山村における悪疫に対する村人たちの組織的な取り組み(民衆組織活動)に端を発し、その後に衛生害虫駆除をはじめ、地区の環境衛生改善などの実践活動を経て、次第に地域の保健衛生問題の自主的解決を目標とする組織活動に発展した地区衛生組織活動の実績と経験であろう。

これらの活動は、昭和34年の保健福祉地区組織育成中央協議会(いわゆる育成協)の設立を契機として社会福祉分野のCommunity Organizationの理論を導入し、保健と福祉を一体として捉えた地区組織活動へと変貌してきた。これは、地域保健活動の基盤ともいべき小地域

の組織化活動を支える方法論として現在においても重視されている。

また、昭和35年から36年にかけて、全国的な盛り上がりを示した“子供を小児麻痺から守る”母親の運動は、ついに生ワクチン投与を実現させ、小児麻痺の劇的な制圧をもたらしたものとして記憶に新しい。これは活動の推進に労働組合の組織的な支えがあったという点で従来の地域組織活動とは異質の事例として注目される。さらに、記憶に新しい顕著な例として、公害から防衛のため企業誘致を阻止した沼津、三島の広範な市民運動がある。

昭和50年以降は、地方自治体や小地域における住民参加の価値が市民に浸透し、運動それ自体に新しい局面が加わったようにみられる。それは、地域開発を展望しての町づくり、地域づくりの一環として保健・医療・福祉制度を考える、という流れであり、これらは疾病対策における対症療法から予防・増進活動へという変化に相当する。また、ボランティア活動も活発化しており、住民の参加・共同による組織的な健康づくり活動はますます増大するものと思われる。

B) 地域保健組織の種類

ところで、地域保健組織活動はどのような形態の組織によって運営されているのであろうか。この点を理解するには保健教育研究会で作成した「地域の保健組織の分類⁹⁾」が役立つ。これを参考にし、我々は次のように分類した。

議会など)

(2)委嘱形式(保健委員など)

(3)世帯単位の加入(町内会・自治会など)

(4)個人加入の住民組織(〇〇健康クラブ・〇〇健康会など)

(5)ボランティア・リーダーの組織(愛育班など)

C) 地域保健組織づくりにおける問題点

「地域保健組織づくり」に関わっている専門家は、多くの場合保健婦である。彼女達の「地域組織づくりを阻んでいる要因」は、一体どのようなものであろうか。この点を理解するためにたいへん役立つ資料がある。それは「地域組織づくりにおける保健婦をとりまく問題点¹⁰⁾」(兵庫県保健環境部医務課：昭和54年)である。以下、これに基づき要点をまとめたい。

この資料では、「保健婦の地域組織づくりを阻んでいる要因」を次の4つに分けてそれぞれについて説明をしている(図1)。

- a) 保健婦の意識の欠如と能力不足
- b) 地域における既存組織の問題点
- c) 住民の意識
- d) 保健婦の職場環境

(1)協議会形式(保健推進協議会・健康づくり協

<地域における既存組織の問題点>

(1) リーダーをめぐる問題点

既存組織のリーダーをめぐる問題として次の5点が挙げられたが、1)と5)のように相反する意見もあった。

- 1) リーダーが固定化している
- 2) 役員だけの行事になりがち
- 3) 行政依存の行事が多い
- 4) 次のリーダーが育たない
- 5) リーダーが変わりがちでリーダーが育たない

(2) 既存組織の質の差

- 1) インテリ層が多い
- 2) 会合が形式的
- 3) 参加する人が一部の人である
- 4) 参加者が固定化しており義理で参加している

などが挙げられた。

<住民の意識>

(1) 住民は豊富な情報をもっているが、健康に対する誤った知識を持っている場合がある。

(2) 連帯の欠如

- 1) 自分のことで精一杯
- 2) 人の世話をしたくない
- 3) 近所付き合いがなく近隣との連帯にかける
- 4) お金につながらないことは気が進まない

といった住民意識が挙げられた。

D) 地域保健組織活動の基本的なねらい

最後に、久常節子の地域保健組織活動に対する考え方を示し、まとめとしたい。¹¹⁾¹²⁾¹³⁾

久常の地域保健組織活動の基本的なねらいは、住民一人一人が自分たちの健康問題に気づき、仲間との学習の中で解決していく力を自らのものとする事と、地域保健組織活動の中核的存在である保健婦が、自らの仕事を“学び”の対象に変えてゆくこと、すなわち保健婦の活動にとって必要な力量を形成し、自らの活動の幅を内側から拡大し、職場の力関係を変えてゆくところにある。

要するに、住民はもちろんのこと保健婦自身も自らの意識変革をしてゆくこと、換言すれば健康問題への“気づき”の構造化が大切であるということである。

その“気づき”の構造化をめざし、久常は次のような評価(判断)の方法を提案している。

評価(判断)の方法には、(1)量でみる(多い、少ない、どのような変化をしたか等)、

(2)内容や形でみる(自分たちで人集めをしている、住民の方から申し出があつて活動が始まった等)、(3)活動のすすめ方でみる、の3つが考えられる。

これらは、それぞれに意味があり重要な評価の方法であるが、「住民一人一人が自分の健康問題を解決していく力をつける」ことをねらいとし、“力をつけていくことを可能にしているか否か”の評価は、“量”の評価だけではみえない。“形”では、内側から発展を生み出していく力やその過程がみえにくい。このように見えにくい“質”に迫る評価のあり方とは、“それがどのようにすすめられているか”を見ることである。

また、活動のすすめ方に関わる活動の活性化

・発展の鍵として久常は、“楽しさ”が必須であるとし、その“楽しさ”を次の3つの要素に分けて述べている。

(1) 気楽で雰囲気楽しい

(2) 自分の発言に関心が持たれ、大事に受け止められる喜び

(3) いままで見えてこなかったことが見えてくる、ワクワクする楽しさ

この(1)と(2)は、感性のレベルを重視した“楽しさ”であるので健康な生活に対する科学的な思考や、取り組みの立体性はみえてこない。だから、日常生活や地域保健活動での感性的な見方を理性的なものにしてゆくためには、(3)の“楽しさ”が必要となる。

要するに、久常の「評価できる活動のすすめ方」とは、一人一人の住民が、自分の健康問題に対する認識を意図した、あるいは促す進め方なのである。」

【4. 今後の研究課題と計画】

(1) 研究課題

最後に確認しておきたいことは、我々の基本的な問題意識である。それは「健康概念の拡大〈An Expanded Health〉と生活の質〈Quality of Life〉¹⁴⁾を重視した地域組織活動の展開は可能か：図2・3」ということである。

我々はこの問題意識を基礎として、以下の「研究課題」を設定した。

研究課題は、大きく2つに分かれる。

1) 地域組織活動の活性化のための要因分析

A：行政側の意識変革

(例えば受診率の向上から生活の質の向上へ)

B：住民側の意識変革

(例えば受動的な活動家から能動的な活動へ)

C：地域組織の構造と機能の明確化

D：地域組織活動の発達過程の明確化

E：地域組織の「活動の場」のシステム化

F：住民の「主体性」を支える要因の把握等

2) 地域組織活動の強化方法の開発

A：地域組織活動に対する「地域の信頼度」を高め、モータリゼーション化する

B：地域組織活動の「展開方法」の新しいノウハウを確保する

C：地域組織活動に対する公的・私的な「経済的援助」を確保する

D：住民の主体性を高める「相互学習の機会」のシステム化

E：保健医療従事者の「リーダーシップ」能力を高める

F：ボランティア活動の啓発等

(2) 研究計画

1) 1990年度：地域組織活動の活性化のための要因分析

2) 1991年度：地域組織活動の強化方法の開発

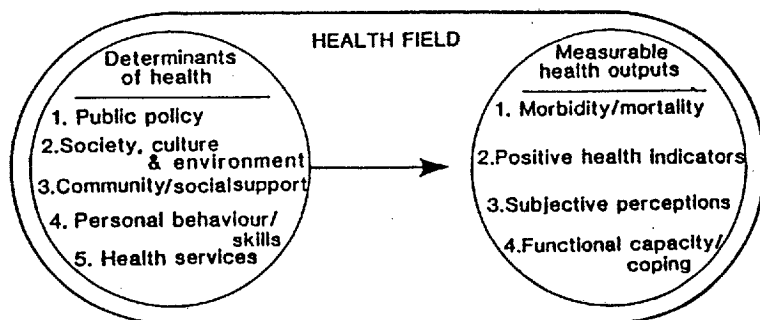


图 2 An expanded health field concept

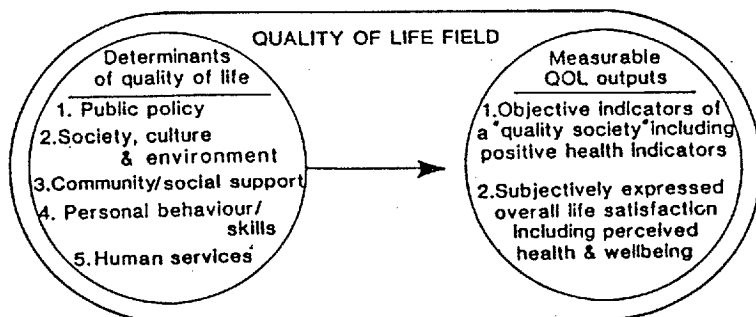


图 3 Possible quality of life field

<引用文献>

- 1) 福渡 靖「地域における母子保健活動のすすめ方」 保健同人社 1986
- 2) 正岡寛司「地域社会と共同体」 勝村 茂編著「現代日本の共同体・地域社会」 学陽書房
P.35 1973
- 3) 中央社会福祉審議会「コミュニティ形成と社会福祉」
- 4) 副田義也「コミュニティ・オーガニゼーション」 誠信書房 P.184-197 1968
- 5) 奥田道大「コミュニティ生活の創造」 奥田道大著「コミュニティの社会設計-新しい
〈まちづくり〉の思想-」 有斐閣 P.57-70 1982
- 6) 岡田 真「コミュニティ・ワーク論-地域づくりのノウ・ハウ-」 大明堂 1981
- 7) 島内憲夫「保健活動における住民の主体的参加」 丸地信弘編「保健活動〈見直し〉の理論
と実際」 医学書院 P.143-144 1981
- 8) 橋本正己・三浦文夫編「地域活動論-保健と福祉のコミュニティ・ワーカー」 全社協
1973
- 9) 高木邦明「住民参加の類型」 宮坂忠夫編「地域保健と住民参加」 第一出版
P.71-75 1983
- 10) 兵庫県保健環境部医務課「地域づくりにおける保健婦をとりまく問題点」 地域保健 12
P.76-84 1979
- 11) 久常節子「保健婦の教育的役割と保健婦に対する教育訓練」 保健医療社会学会編
「プライマリー・ヘルス・ケアの戦略」 垣内出版 P.210 1981
- 12) 久常節子「組織活動への取り組みを困難にしているもの」 地域保健 14 (4)
P.80-84 1983
- 13) 久常節子「組織活動への取り組みを困難にしているもの・その2」 地域保健 14 (5)
P.94-99 1983
- 14) John M.Raeburn, Irving Rootman :Towards an expanded health field concept:
conceptual and research issues in a new era of health promotion,
"HEALTH PROMOTION" Vol.3 No.4, 383-392, 1988.

文 献 リ ス ト

1. 雑 誌

A. 地域活動研究	1
B. 地域保健	6
C. 保健婦雑誌	8
D. 日本公衆衛生雑誌	12
E. 公衆衛生	18
F. 公衆衛生情報	23

2. 単 行 本 28

雑誌名 季刊・地域活動研究

- 木村忠二郎 『地域組織化活動の発展』 01巻01号 P.2- 1967年
- 布施鉄治 『地域社会変動と地域住民』 01巻01号 P.10- 1967年
- 奥田道大 『都市における住民組織－住民運動との関連において－』 01巻01号 P.19- 1967年
- 嶋田啓一郎 『＜講座＞地区活動におけるリーダーシップの問題』 01巻01号 P.29- 1967年
- 竹内吉正 『各地の経験に学ぶ：地区住民の願いとともに－大町市海の口地区の経験に学ぶ－』 01巻01号 P.38- 1967年
- 吹田母子会 『各地の経験に学ぶ：起ちあがった主婦たち－足あと抄－』 01巻01号 P.47- 1967年
- 吉沢英子 『起ちあがった主婦たち：コメント：地域福祉活動と吹田母子会』 01巻01号 P.57- 1967年
- 館 稔 『人口変動と地域活動』 01巻02号 P.1 1968年
- 渡部剛士 『各地の経験に学ぶ：過疎地域における保健福祉活動について－鶴岡市羽黒山開拓地の経験－』 01巻02号 P.49-56 1968年
- 毛利健治 『各地の経験に学ぶ：コメント：過疎問題と住民福祉』 01巻02号 P.57 1968年
- 西尾雅七 『住民運動と住民自治』 01巻03号 P.1 1968年
- 松原治郎, 佐藤暢男 『「地域」設定の理論と社会福祉』 01巻03号 P.2 1968年
- 中村八朗 『近郊における地域集団』 01巻03号 P.20 1968年
- 田中恒男 『地域調査の体系と手法』 01巻03号 P.44-50 1968年
- 井岡 勉 『＜各地の経験に学ぶ＞ある山間農村の社協活動－京都府三和町の場合－』 01巻03号 P.56-64 1968年
- 山田雄三 『国の計画、地域の計画』 02巻01号 P.1 1968年
- 橋本正己 『地区組織活動の現状と課題－地域保健活動の立場から－』 02巻01号 P.2 1968年
- 雀部猛利 『地区組織活動の現状と将来』 02巻01号 P.9 1968年
- 水野 洋 『地区組織活動の歴史的評価と展望』 02巻01号 P.16 1968年
- 福尾武彦 『農村の地域活動の評価』 02巻01号 P.25 1968年
- 前田大作 『地区組織活動における問題把握』 02巻01号 P.44 1968年
- 羽多野隆生 『各地の経験に学ぶ：健康村建設運動の目指すもの』 02巻01号 P.54 1968年
- 村上秀親 『各地の経験に学ぶ：コメント：朝日村の活動への期待』 02巻01号 P.61 1968年
- 野上文夫 『美方町のお母さんたち－「農村婦人の実態調査」から』 02巻01号 P.36-43 1968年

*** 雑誌 ***

雑誌名 季刊・地域活動研究

- 増田長宗 『住民のために、住民による、住民の健康と福祉を』 02巻02号 P.1 1968年
- 遠藤 晃 『地方自治と地域活動』 02巻02号 P.3- 1968年
- 大橋邦和 『健康を守るための地域活動』 02巻02号 P.12- 1968年
- 柏熊岬二 『地域福祉計画』 02巻02号 P.29 1968年
- 竹村吉右衛門 『住民生活と地域組織活動』 02巻02号 P.1 1968年
- 重田信一 『社会福祉教育について』 02巻02号 P. 1968年
- はやし秀 『地域への衛生教育活動』 02巻02号 P. 1968年
- 高橋明善 『生活擁護と市民運動』 02巻02号 P. 1968年
- 園田恭一 『コミュニティ・オーガニゼーション活動の日本への導入について』 02巻02号 P.36- 1968年
- 丸屋 博 『各地の経験に学ぶ：新産都市公害と住民運動』 02巻02号 P. 1968年
- 金坂直仁 『各地の経験に学ぶ：開拓地における地区組織活動』 02巻02号 P.58 1968年
- 花島政三郎 『各地の経験に学ぶ：コメト：大谷開拓部落の前進のために』 02巻02号 P.66- 1968年
- 真田 是 『自治体と社会福祉』 02巻02号 P.20-28 1968年
- 星野重雄 『＜各地の経験に学ぶ＞公害予防住民運動の思い出－沼津・三島地域石油コンビナート誘致反対運動－』 02巻02号 P.40-46 1968年
- 山口建蔵 『＜各地の経験に学ぶ＞北九州市における社協の活動』 02巻02号 P.47-52 1968年
- 磯村英一 『空転する地域活動』 03巻01号 P.1 1925年
- 橋本正己 『特集：保健福祉分野におけるプランニング 問題の提起』 03巻01号 P. 1925年
- 岡村重夫 『特集：保健福祉分野におけるプランニング その理論的考察』 03巻01号 P. 1925年
- 三浦文夫 『特集：保健福祉分野におけるプランニング プランニングの二つの系譜』 03巻01号 P. 1925年
- 東田敏夫 『特集：保健福祉分野におけるプランニング 住民の保健と「地域計画」』 03巻01号 P. 1925年
- 園田恭一 『特集：保健福祉分野におけるプランニング 地域社会計画の基本問題』 03巻01号 P. 1925年
- 重田信一、浦辺 史 『特集：保健福祉分野におけるプランニング 保健福祉計画の概念・方法およびオルガナイザーの諸問題』 03巻01号 P. 1925年

雑誌名 季刊・地域活動研究

- 橋本善彦 『事例研究の方法』 03巻01号 P. 1925年
- 佐田 進 『各地の経験に学ぶ：瀬高町における環境衛生全町運動』 03巻01号 P.53 1925年
- 安部弘毅 『各地の経験に学ぶ：コメント：環境衛生全町運動をみて』 03巻01号 P.58 1925年
- 牧 賢一 『地域福祉活動は進展する』 03巻02号 P.1 1970年
- 倉沢 進 『特集：転換期における地域活動 コミュニティと住民生活』 03巻02号 P.2 1970年
- 阿部志郎 『特集：転換期における地域活動 地域活動の脆弱性とその体質改善』 03巻02号 P.8 1970年
- 小倉襄二 『特集：転換期における地域活動 地域福祉の認識論』 03巻02号 P. 1970年
- 前田信雄 『特集：転換期における地域活動 山村、漁村における地域保健活動』 03巻02号 P. 1970年
- 柏熊岬二 『特集：転換期における地域活動 保健衛生分野における地域組織活動』 03巻02号 P.27 1970年
- 三浦文夫 『特集：転換期における地域活動 誌上シンポジウムを読んで』 03巻02号 P. 1970年
- 永田幹夫 『地域活動と専門ワーカー』 03巻02号 P. 1970年
- 丸山地区文化防犯協議会 『各地の経験に学ぶ：丸山地区の市民運動』 03巻02号 P. 1970年
- 高坂参郎 他 『＜各地の経験に学ぶ＞保健活動と地域の変容－青森県下の2地区の例－』 03巻02号 P.50-54 1970年
- 福武 直 『日本の地域社会と地域活動』 04巻01号 P.1 1970年
- 三浦文夫 『コミュニティ・ケアの発想とその展開をめぐる若干の問題』 04巻01号 P.2 1970年
- 小島容子 『心身障害児に対するコミュニティ・ケア』 04巻01号 P.9 1970年
- 栗原忠夫 『老人福祉のコミュニティ・ケア』 04巻01号 P.17 1970年
- 柏木 昭 『精神障害者のコミュニティ・ケア』 04巻01号 P.24 1970年
- 副田義也 『地域社会における住民と行政』 04巻01号 P.31 1970年
- 桜井芳郎 『地域社会の診断と地域活動』 04巻01号 P.37 1970年
- 本橋 頤 『各地の経験に学ぶ：住民主体の社協活動』 04巻01号 P.46 1970年
- 斉藤仁教 『各地の経験に学ぶ：保健福祉活動から地区社協結成へ』 04巻01号 P.51 1970年
- 福井県社協 『各地の経験に学ぶ：コメント：逢羽地区住民活動の展開』 04巻01号 P.58 1970年

雑誌名 季刊・地域活動研究

- 岡村重夫 『地域活動と地方自治』 04巻02号 P.1 1925年
- 河中二講 『特集：住民活動と地方自治 行政と住民活動』 04巻02号 P.2 1925年
- 奥田道大 『特集：住民活動と地方自治 コミュニティ形成の課題』 04巻02号 P.9 1925年
- 北川孝吉 『特集：住民活動と地方自治 市民運動の基盤とその意味』 04巻02号 P.20 1925年
- 竹内吉正 『各地の経験に学ぶ：幼児のいのちを事故から守る運動』 04巻02号 P.44 1925年
- 橋本正己 『地域活動を考える』 04巻02号 P.1 1925年
- 園田恭一 『コミュニティ施設とコミュニティ活動』 05巻01号 P.2-7 1971年
- 三井為友 『コミュニティとコミュニティづくりの構想と課題』 05巻01号 P.8 1971年
- 木村 仁 『コミュニティとコミュニティづくりの構想と課題』 05巻01号 P.15 1971年
- 五島貞次 『コミュニティとコミュニティづくりの構想と課題』 05巻01号 P.22 1971年
- 相磯富士雄 『コミュニティとコミュニティづくりの構想と課題』 05巻01号 P.28 1971年
- 小川 敏 『現地からのレポート：コミュニティづくりの構想』 05巻01号 P.52 1971年
- 重田信一 『住民福祉運動の指導者』 05巻02号 P.1 1972年
- 安藤元雄 『住民運動とは何をめざすか』 05巻02号 P.2 1972年
- 小沢辰男 『住民運動の形態と地方自治』 05巻02号 P.12 1972年
- 助川信彦 『環境の危機と住民運動』 05巻02号 P.19 1972年
- 沖田哲也 『住民運動にみる住民自治と行政』 05巻02号 P.25 1972年
- 広原盛明 『地域活動研究へのアプローチ』 05巻02号 P.31 1972年
- 竹下 譲 『町内会の変様とその活動』 05巻02号 P.38 1972年
- 川田智恵子 『コミュニティ・オーガニゼーションの動向』 05巻02号 P.45 1972年
- 中野 潤 『各地の経験に学ぶ：へき地における保健福祉活動』 05巻02号 P.51 1972年
- 岸田順子 『<各地の経験に学ぶ>伊丹市における航空公害反対の闘い－住民運動と市社協の結びつき－』 05巻02号 P.58-64 1972年
- 国井長次郎 『組織的な活動の効果』 06巻01号 P.1 1972年
- 岡村重夫 『地域福祉活動における公私の機能分担』 06巻01号 P.2 1972年
- 西 三郎 『地域活動における民間活動の機能と行政の役割』 06巻01号 P.8 1972年

*** 雑誌 ***

雑誌名 季刊・地域活動研究

- 江見康一 『地域活動経費の公私負担』 06巻01号 P.13 1972年
- 中田幸子 『地域活動における民間活動の役割』 06巻01号 P.18 1972年
- 吉田克己 『公害問題にみる住民運動の特質性』 06巻01号 P.24 1972年
- 副田義也 『コミュニティ・ワーカーと地域福祉労働者』 06巻01号 P.38 1972年
- 木下慶一 『<各地の経験に学ぶ>住民主体の社協への試み-多賀町社協の活動-』 06巻01号 P.44-48 1972年
- 増田四郎 『コミュニティの復権』 06巻02号 P.1 1973年
- 三浦文夫 『誌上シンポジウム：ボランティア活動の課題 問題提起』 06巻02号 P.2 1973年
- 柴田善守 『誌上シンポジウム：ボランティア活動の課題 ボランティア活動の意義』 06巻02号 P.4 1973年
- 阿部志郎 『誌上シンポジウム：ボランティア活動の課題 ボランティアの思想的性格』 06巻02号 P.11 1973年
- 新谷弘子 『誌上シンポジウム：ボランティア活動の課題 ボランティア活動の実践』 06巻02号 P.18 1973年
- 手塚直樹 『誌上シンポジウム：ボランティア活動の課題 実践からみたボランティア活動』 06巻02号 P.26 1973年
- 三浦文夫 『誌上シンポジウム：ボランティア活動の課題 問題整理』 06巻02号 P.33 1973年
- 常谷いつ子 『各地の経験に学ぶ：こどものための地域活動』 06巻02号 P.59 1973年
- 田中いく 『<各地の経験に学ぶ>栄養教室の活動-保健のための地域活動-』 06巻02号 P.59-63 1973年
- 橋本正己 『地域サービスの将来-医療と福祉の接点を求めて-』 08巻01号 P.10-18 1975年

*** 雑誌 ***

雑誌名 月刊地域保健

- 田中甲子 『＜特集＞医療をめぐる地域の動き⑥ 医療の牙城に迫る住民パワーー福井県「生活学校」の活動ー』 03巻03号 P.44-54 1973年
- 小林秀資 他 『地域保健活動の展望と問題点 ＜座談会＞現状認識と可能性を探る』 05巻01号 P.17-51 1974年
- 田中甲子 『＜ルポタージュ＞横浜市西区の地域保健活動の実際』 05巻01号 P.52-59 1974年
- 田中甲子 『第6回自治体に働く保健婦の集いから このエネルギーの向こう側は！』 05巻02号 P.62-73 1974年
- 中沢正夫 他 『第6回自治体に働く保健婦のつどい分科会から』 05巻02号 P.74-76 1974年
- 内堀千代子 他 『＜特集2＞パネルディスカッション 住民参加による保健活動』 07巻11号 P.32-89 1976年
- 金子 勇 『地域保健活動と自治体』 08巻01号 P.58-82 1977年
- 橋本正己 『地域保健活動の進路』 09巻03巻 P.08-16 1978年
- 大谷藤郎 他 『＜特集＞健康づくりと地域保健活動』 09巻10号 P.08-80 1978年
- 三浦 保 『＜連載＞グループのつくり方①～⑦』 10/09～11/04 P. 1979年
- 金子 勇 他 『＜座談会＞住民と共に歩む姿勢ー地域に根を張るためにー』 10巻01号 P.53-79 1979年
- 前田大作 他 『健康教育と地区組織活動の育成』 10巻09号 P.02-93 1979年
- 美野喜美穂 他 『近畿ブロック保健婦研修会から 地域組織づくりにおける保健婦をとりまく問題点』 10巻11号 P.76-84 1979年
- 金子千鶴子 『「グループのつくり方、動かし方」を実践してー地区組織育成をめざした健康講座を実施してー』 11巻04号 P.73-79 1980年
- 久常節子 『住民による保健活動と専門職ープライマリ・ヘルス・ケアの発想と基盤とする保健婦活動』 12巻01号 P.43-47 1981年
- 松下 拓 他 『健康づくりと地区組織活動（昭和56年保健活動専門研修収録）』 13巻09号 P.07-166 1982年
- 久常節子 『＜連載＞組織活動への取り組みを困難にしているもの①～③』 14/04～15/03 P. 1983年
- 石井みえ子 『都市における住民主体の組織活動をめざして』 14巻02号 P.76-84 1983年
- 久常節子 他 『組織活動を阻んでいるものに迫る』 14巻10号 P.09-56 1983年
- 青木秀信 『＜シンポジウム＞地域における健康づくりー住民参加を考えるー』 15巻07号 P.41-74 1984年

*** 雑誌 ***

雑誌名 月刊地域保健

久常節子 他 『「やらされる」が「やる」に変わるとき<座談会>局面を拓いた方法とダイナミクス』
16巻01号 P.34-70 1985年

高崎絹子 他 『ボランティア活動と保健婦活動』 16巻07号 P.53-89 1985年

久常節子 他 『<特集>地域に老人ケア活動を育てる』 17巻07号 P.09-84 1986年

藤島弘道 『公衆衛生のしゅん動・保健所活性化のうごき 長野県の場合ー健康づくりやまびこ運動事業』
18巻03号 P.09-46 1987年

雑誌名 保健婦雑誌

- 柏熊岬二 『子供と住居地』 15巻05号 P.105- 1959年
- 竹内繁喜 『＜座談会＞保健所の母子衛生を診断する』 15巻05号 P.18- 1959年
- 松尾正雄 『保健所の母子衛生を診断する』 15巻05号 P.7 1959年
- 武石マス 『K保健所のお母さんクラブ組織作りの経過』 15巻07号 P. 1959年
- 三浦英夫 『保健福祉に関する地区組織活動について』 15巻11号 P. 1959年
- 岸 洋子 『地区組織活動に関する研究－幼児の健康管理の実態－』 18巻02号 P.15-20 1962年
- 小林梅子 『母子愛育組織活動について』 18巻10号 P. 1962年
- 宮坂忠夫 『地区組織活動の技術』 18巻12号 P.67-69 1962年
- 西山 勇 『地区の要求にこたえる働き方をめぐって－保健所の保健婦は何故忙しいのか－』 19巻03号 P.22- 1963年
- 協力：高橋洋々、菊地静子 他 『地区民はサービスの向上を求めている』 19巻03号 P.10- 1963
- 柏熊岬二 『健康を阻害する社会的条件－社会の生活慣行を保健社会学からどうみるか－』 19巻05号 P.69- 1963年
- 磯谷芳子 『家族計画を中心としたグループ指導と地区組織活動』 19巻06号 P.62 1963年
- 松野かほる 他 『＜座談会＞事業計画のポイントをさぐる』 19巻06号 P.40- 1963年
- 田中恒男 『健康問題と保健活動－社会の人々はなぜ行動するか－』 19巻08号 P.69- 1963年
- 大阪多恵子 『＜座談会＞新しい条件と新しい働きかた』 19巻09号 P.10- 1963年
- 西林雅子 『農村における地区組織の活用－「中老会」に期待するもの－』 20巻01号 P.64-68 1964年
- 渡辺春江 『私のいづく保健婦像－地域社会全体の組織者－』 20巻02号 P.41 1964年
- 滝本みやね 他 『＜座談会＞都市保健婦の現実と明日』 20巻04号 P.20- 1964年
- 田島 基 『私にみる現代保健婦のなりたち』 20巻04号 P.13- 1964年
- 田中恒男 『生きている保健指導の対象』 20巻09号 P.33 1964年
- 田中恒男、西村恭彦 『現地にみる“くらしの中の公衆衛生”活動－地区組織の活用こそ活動の推進力か－』 21巻08号 P.30-38 1965年
- 原田正二 『地区衛生組織活動の現状』 22巻02号 P.40-43 1966年
- 奥田道大 『都市地域生活の類型と保健活動』 22巻07号 P.69-73 1966年

*** 雑誌 ***

雑誌名 保健婦雑誌

- 稲吉はつえ 『地区組織活動の一事例』 22巻09号 P.40-48 1966年
- 奥田道大 『生活と健康を守る地域住民運動』 22巻12号 P.65-68 1966年
- 大峽美代志 『保健補導員と地区組織活動』 24巻05号 P.34-37 1968年
- 西谷智英 『地域ぐるみの健康づくり運動』 24巻05号 P.28-33 1968年
- 林 えいだい 『健康を守る住民運動』 24巻05号 P.21-27 1968年
- 田中恒男 『地域組織活動と保健婦の役割』 24巻05号 P.16-20 1968年
- 奥田道大 『都市住民運動とコミュニティへの新基盤』 24巻05号 P.10-15 1968年
- 奥田道大 『都市化と住民生活の構造』 25巻07号 P.23-27 1969年
- 小野洋子 『大都市における地区組織活動の一事例－渋谷区笹塚地区の経験から－』 25巻07号 P.33-1969年
- 柏熊岬二 『地区組織活動に対する私見－石垣氏の批判に応えて－』 25巻12号 P.76-80 1969年
- 工藤寿子 他 『地域組織活動を呼び起こした保健婦活動』 29巻08号 P.75-84 1973年
- 中村輝江 『＜特集＞秩父の保健婦活動・昨日今日－母子愛育会の協力を得て－』 30巻02号 P.17-19 1974年
- 村瀬敏子 他 『地区活動で進めた成人病予防の経験』 30巻08号 P.60 1974年
- 中牟田梅子 『地区婦人組織を対象とした乳がんの集団検診について』 32巻12号 P.38-41 1976年
- 八代千代 他 『＜特集＞乳児死亡ゼロをめざして－座談会－』 33巻09号 P.02-46 1977年
- 田畑健介 他 『＜座談会＞保健所は区民のものになりつつあるか 保健所区移管と保健婦活動』 34巻01号 P.34-49 1978年
- 一木アサ子 『地区組織活動に命をかけたか－母子愛育班活動を通して－』 34巻05号 P.70 1978年
- 松下 拡 『地域組織づくりと保健婦活動』 35巻12号 P.107-123 1979年
- 入善町役場保健婦 他 『＜特集＞住民との協調の中で活動を組み立てた』 36巻04号 P.10-51 1980年
- 島内憲夫 他 『保健活動における住民の主体的参加』 37巻03号 P.40-49 1981年
- 松下 拡 『＜シンポジウム＞松川町における健康への取り組み－住民主体的な実践と保健婦の活動－』 37巻07号 P.108-137 1981年
- 当麻洋子 他 『組織活動を魅力あるものに－行政の下請けから住民自身の組織に－』 38巻08号 P.10-23 1983年

雑誌名 保健婦雑誌

- 小山 修 他 『＜連載＞保健活動の「見直し」から「見直し」へ 1～27』 39/02～41/12 P. 1983年
- 久常節子 他 『＜特集＞住民の主体性に基づく組織活動をⅠ－保健婦のかかわりを徹底追求－』 39巻05号 P.10-78 1983年
- 久常節子 他 『＜特集＞住民の主体性に基づく組織活動をⅡ－保健婦自らの変革を求めて－』 39巻06号 P.10-47 1983年
- 阿部由香 他 『＜特集＞先輩が語る戦後の活動の軌跡(2)－住民参加の母体となった愛育委員組織小西なつ子さん(岡山県)－』 40巻05号 P.24-26 1984年
- 松下 拓 『＜実践講座＞健康問題と組織活動』 40巻07号 P.87-99 1984年
- 諸井とみ江 他 『＜特集＞住民が期待する保健婦になれるか－静岡県における活動見直しの実践』 40巻10号 P.14-82 1984年
- 宇都宮百合 『先輩が語る戦後の活動の軌跡 地区組織とともに歩んで28年－高須賀カヲルさん(愛媛)－』 41巻05号 P.23-28 1985年
- 太田垣 他 『＜シンポジウム＞岡山市の母子クラブ活動－子育てと母親の組織づくり－』 41巻07号 P.19-39 1985年
- 新谷秀子 他 『＜パネルディスカッション＞活動を作り、築き、発展させる－住民が、保健婦が、真実したい事から－』 41巻10号 P.10-25 1985年
- 木村久美子 他 『＜座談会＞重点地区活動から学んだこと』 41巻11号 P.58-73 1985年
- 浜中 満 『保健婦の活動を支える体制3) 住民、市、保健所が一体となって』 42巻02号 P.52-53 1986年
- 伊林森枝 『町ぐるみ地区保健活動と保健婦ステーション』 42巻04号 P.62-67 1986年
- 伊藤悦子 『地域で酒害とその家族を支える』 42巻04号 P.38-41 1986年
- 星野ゆう子 『地域で老人を支える活動へ』 42巻04号 P.33-37 1986年
- 柴沼和加子 『＜座談会＞地域が動くような活動を』 42巻04号 P.16-32 1986年
- 久常節子 他 『＜特集＞健診は住民1人1人のものになっているか－健診と住民の組織活動をめぐって』 42巻05号 P.10-42 1986年
- 松下 拓 『保健婦活動と組織づくり－組織づくりの基本となるもの－』 42巻07号 P.111-123 1986年
- 山崎早苗 他 『＜連載＞母親の育児していく力の形成と組織活動①～⑤』 43/10～44/02 P. 1987年
- 竹井久弥 『＜特集＞ともに学び、ともに歩む住民と保健婦 座談会／住民の主体的な活動を支えてこそ保健婦－松川町の活動に限りない共感を－』 43巻04号 P.32-52 1987年

*** 雑誌 ***

雑誌名 保健婦雑誌

竹井久弥 他 『＜シンポジウム＞生き生き中高齢者と保健婦の連帯－東京都練馬区における健康と生きがいを考える地域の活動－』 43巻07号 P.97-114 1987年

斎藤洋子 他 『＜座談会＞住民とともに生きる活動－バングラディッシュとイギリスの体験をとおして－』 43巻08号 P.10-25 1987年

原はる子 他 『＜分科会＞保健婦活動の原点としての組織活動』 44巻07号 P.34-44 1988年

水元千都江 『母子保健における地区組織活動の評価－むし歯予防活動の事例から－』 45巻06号 P.25-31 1989年

柴崎 昇 他 『＜パネルディスカッション＞地域組織活動の活性化1』 45巻06号 P.49-59 1989年

柴崎 昇 他 『＜パネルディスカッション＞地域組織活動の活性化2』 45巻07号 P.48-62 1989年

下村佳子 『＜アルコール問題に対する保健婦活動＞地域の力を活用してアルコール依存症への援助を考える－私とアルコール依存症の出会い－』 45巻08号 P.38-41 1989年

*** 雑誌 ***

雑誌名 日本公衆衛生雑誌

- 宮坂忠夫 『地区衛生組織活動－コミュニティオーガニゼーション－』 02巻01号 P.493- 1955年
- 井上善十郎 『公衆衛生教育は「か」と「はえ」のいない街の実現から』 02巻07号 P.685- 1955年
- 橋本正己 『広島、長崎両県における環境衛生運動について』 02巻08号 P.594- 1955年
- 長崎県衛生部 『蚊とはえをなくす運動』 03巻07号 P.316- 1956年
- 広島県衛生部 『広島県における「蚊とはえのいない生活実践運動」5年のあゆみ』 03巻07号 P.325- 1956年
- 岡山県衛生部 『岡山県の母子衛生対策』 03巻12号 P.610- 1956年
- 福武 直 『環境衛生改善運動衛生改善運動と農村社会－はえと蚊をなくした村の一事例から－』 04巻01号 P.1- 1957年
- 『“蚊とはえのいない生活”実践運動はどれだけのびたか』 04巻01号 P.1- 1957年
- 『“蚊とはえのいない生活”実践運動の状況』 04巻12号 P. 1957年
- 橋本道夫 『パキスタンの村づくり運動』 05巻07号 P. 1958年
- 額田 祭 他 『まちを静かにする運動の成果』 06巻01号 P.13- 1959年
- 橋本正己 『保健と福祉の地区組織活動の関係についての考察』 06巻08号 P.395- 1959年
- 橋 郁雄 『農山村地域における母子衛生対策とその行政効果について』 08巻04号 P.435- 1961年
- 箱 稔 『国連における社会開発の考え方』 12巻07号 P.601- 1965年
- 金永安弘 訳 『コミュニティオーガニゼーションのための動機づけ』 15巻01号 P.44- 1968年
- 金永安弘 訳 『コミュニティオーガニゼーションの理論的枠組』 15巻02号 P.95- 1968年
- 小林治一郎 『都市における地区衛生組織活動の研究（第1報）』 15巻09号 P.753- 1968年
- 中島 茂 『地区衛生組織の中たるみを如何に克服してきたか』 15巻10号 P.34- 1968年
- 津村大八 他 『地区民のHealth Needと公衆衛生活動』 15巻10号 P.39- 1968年
- 藤岡千秋、宮坂忠夫 『地区組織活動に関する保健所職員の認識について』 15巻10号 P.40- 1968
- 清田 操、小松五郎、山本 暢、 『自治会の公衆衛生活動と乳幼児の発達について』 16巻13号 P. 1969年
- 藤岡千秋、宮坂忠夫、川田智恵子；金永安弘 『我が国における保健領域の地区組織活動に関する研究－文献学的考察－』 16巻13号 P. 1969年
- 藤岡千秋、宮坂忠夫、川田智恵子；金永安弘 『保健領域におけるCommunity Organizationに関する文献学的考察（アメリカの場合）』 16巻13号 P. 1969年

雑誌名 日本公衆衛生雑誌

鈴木孝瑛, 小島哲雄, 日向林子; 前田道雄, 足立登紀夫, 『都市近郊農村に於ける地区組織活動の停滞化の原因について』 16巻13号 P. 1969年

飯島伸子, 宮坂忠夫 『地区組織活動の実態およびリーダーの意識に関する報告書』 16巻13号 P. 1969年

西浦俊子 『都会における小地域の地区組織づくりへのひとつの試み』 16巻13号 P. 1969年

金子 勇, 内田昭夫, 柳沢利喜雄 『僻地保健の向上に関する研究(7)』 16巻13号 P. 1969年

稲葉峯雄, 岡田尚久, 堤 照 他 『共同保健計画の推進と地区組織活動の評価』 16巻13号 P. 1969年

津村大八 『農村の保健活動と地区住民の参加』 17巻11号 P. 1970年

上条好一 他 『衛生教育活動における対象条件に関する研究-地域リーダーに関する研究-』 17巻11号 P.116- 1970年

木戸口信雄 『都市化の地区組織について』 17巻11号 P. 1970年

町田清子 『これからの母子保健管理-妊産婦の管理を中心として-』 18巻10号 P.78-79 1971年

小林梅子 『これからの母子保健管理-妊産婦の管理を中心として-』 18巻10号 P.82-83 1971年

(司会) 西尾雅七 『シンポジウム 住民主体の公衆衛生活動』 18巻10号 P.36-47 1971年

吉木 定 他 『地区組織の連携による三歳児健康診査第2報: 健診システムの問題点と対策』 18巻10号 P.174 1971年

南部ヒサ 他 『地区組織の連携による三歳児健康診査第1報: 地域へのアプローチ』 18巻10号 P. 1971年

三浦志げ子 他 『母子教室の現状(第1報)』 18巻10号 P.139 1971年

伊藤うら, 長尾章子 『K市A地区における地区組織活動について』 18巻10号 P.138 1971年

山路延子 『母子会活動としての子宮がん集団検診について』 18巻10号 P.137 1971年

曾田長宗 『公衆衛生の反省-指導の立場から住民主体の公衆衛生へ-』 18巻10号 P.1 1971年

堤 郁子 『鷹栖町における保健推進員活動について』 19巻04号 P. 1972年

藤岡千秋 『大都市近郊の市街化によるCommunity Organizationの変容過程に関する考察-三鷹市中原地区-』 19巻04号 P. 1972年

川田智恵子 『近郊都市の地区組織活動-三鷹市東野会の場合-』 19巻04号 P. 1972年

野原忠博 『近郊都市におけるコミュニティオーガニゼーション-三鷹市の場合-』 19巻04号 P. 1972年

雑誌名 日本公衆衛生雑誌

- 加藤万之輔 『地区組織活動で進めた成人病対策の試み』 20巻10号 P.222- 1973年
- 飯沼 伝 『総合シホ・ゾム：保健所再編成と住民の求める衛生行政 1. 地区衛生組織の立場から』 21巻10号 P.82-83 1974年
- 小河内忍 『地区組織の育成と自主的活動－川口市戸塚地区，川越市小仙波地区健康管理委員会の実例より－』 21巻10号 P.452 1974年
- 佐々木タカ 『地区組織活動における医療社会事業の役割』 21巻10号 P.474 1974年
- 山中豊子 『アルコール中毒対策についての研究（第4報）－治療志向集団としての断酒会力動の分析－』 21巻10号 P.496 1974年
- 山口利三郎 『清水町における地域精神衛生活動の試み(5)－地区組織化の面から－』 22巻10号 P.139 1975年
- 司会：橋本正己，他 『総合シホ・ゾム：地域保健活動の実際とその評価』 23巻10号 P. 1976年
- 宮坂忠夫 『母子保健に関する保健教育学的研究－団地とその周辺農村地区に対するアプローチ－』 23巻10号 P.301 1976年
- 川田智恵子 『地域活動と地域関心－三鷹市大沢地区－』 23巻10号 P.304 1976年
- 鈴木朝清 『地区組織活動における献血運動展開』 24巻10号 P.219 1977年
- 林 吉彰 他 『摂津市における地域共同保健活動－摂津市保健センターを拠点として－』 25巻10号 P.203 1978年
- 大工原秀子 『保健婦の地区組織活動の新しい試み（その1）』 25巻10号 P.251 1978年
- 小松 真 他 『地域のプライマリーケア組織について－日野市難病検診の事例から－』 26巻10号 P.155 1979年
- 阪上裕子 『プライマリーヘルスケアにおける住民の役割』 26巻10号 P.156 1979年
- 石丸梅子 『新しい地区組織活動の試み－成人病に関する栄養改善を中心にして－』 26巻10号 P.558 1979年
- 大工原秀子 他 『保健婦の地区組織活動の新しい試み（その2-1）アルコール症、患者家族看護勉強会、性教育』 26巻10号 P.577 1979年
- 大工原秀子 他 『保健婦の地区組織活動の新しい試み（その2-2）ぜんそく児の保健相談』 26巻10号 P.578 1979年
- 大工原秀子 他 『保健婦の地区組織活動の新しい試み（その2-3）母性教室と母と子の保健相談』 26巻10号 P.579 1979年
- 大工原秀子 他 『保健婦の地区組織活動の新しい試み（その2-4）成人保健相談』 26巻10号 P.580 1979年

雑誌名 日本公衆衛生雑誌

- 西 三郎 『公衆衛生活動における新しい形態の住民参加』 27巻10号 P.258 1980年
- 祖父江光子 『出生高率団地における地区組織活動の試み』 27巻10号 P.272 1980年
- 中島紀恵子 『障害児親の会の発展過程の一考察－PHC的評価－』 27巻10号 P.273 1980年
- 宮坂忠夫 他 『健康農村モデル地区10年後の状況－埼玉県旧千代田村の場合（その4 住民組織、活動全体と総括）－』 27巻10号 P.420 1980年
- 久常節子 『健康問題における集団及び組織活動のあり方に関する研究（第1報）組織活動に対する保健婦の意識』 28巻10号 P.208 1981年
- 真野元四郎 『酒害対策に関する研究－酒害者集団の機能についての一考察－』 28巻10号 P.615 1981年
- 小池純子 『福祉の風土作りに参加してる独居老人と保健婦のかかわり』 28巻10号 P.673 1981年
- 二田千鶴子 『婦人健康教育（健康づくりリーダー養成）の実践から』 29巻10号 P.613 1982年
- 甲斐久美子 『自らの健康問題を解決していこうとする意欲を生み出すグループ学習のあり方』 29巻10号 P.614 1982年
- 小林基弘 『中井町における地域ぐるみの健康づくり（第2報）住民主体の健康教育の試み』 29巻10号 P.813 1982年
- 金城芳子 『沖縄県一離島における断酒会発足のいきさつと課題－考えながら仕事をしようと努めて（その1）』 30巻11号 P.511 1983年
- 比嘉ミヨ子 『沖縄県一農村における「組合」の発足のいきさつと課題－考えながら仕事をしようと努めて（その2）』 30巻11号 P.512 1983年
- 岩本 晋 『組織された地域保健活動の成果』 30巻11号 P.546-551 1983年
- 生地 新 『高齢化社会と成人病予防の地域組織活動 第1報 山形県内の地域組織活動の類型化』 30巻11号 P.611 1983年
- 岩崎 清 『高齢化社会と成人病予防の地域組織活動 第2報 類型別にみた組織活動の事例研究』 30巻11号 P.612 1983年
- 新井宏明 『高齢化社会と成人病予防の地域組織活動 第3報 成人病予防活動の地域づくり運動への展開』 30巻11号 P.613 1983年
- 坪倉幸江 『大都市における地域組織活動への取り組み（第3報）健康の自覚と心理テストの関連について』 31巻10号 P.8 1984年
- 宮地文子 『公衆衛生看護教育における地区組織活動の学習展開方法』 31巻10号 P.19 1984年
- 佐藤玉枝 『健康問題における組織活動を成り立たせる条件（第1報）婦人会組織におけるリーダーシップ形成過程とその要因』 31巻10号 P.32 1984年

*** 雑誌 ***

雑誌名 日本公衆衛生雑誌

- 熊谷勝子 『健康問題における組織活動を成り立たせる条件（第2報）健診事業と集団学習の関連』 31巻10号 P.33 1984年
- 松下 拡 『健康問題における組織活動を成り立たせる条件（第3報）地域における住民の学習構造』 31巻10号 P.34 1984年
- 久常節子 『健康問題における組織活動を成り立たせる条件（第4報）集団学習から導きだされたリーダーシップ機能』 31巻10号 P.35 1984年
- 松下 拡 『健康問題と住民の組織活動—住民の組織活動は主体的な学習によって深まる—』 32巻10号 P.31 1985年
- 眞船拓子 『地区組織活動における問題解決及び支援に必要な視点』 32巻10号 P.93 1985年
- 梶川正子 『大都市における地域組織活動への取り組み（第4報）家庭看護の地域指導者育成の取り組み』 32巻10号 P.97 1985年
- 渡辺信子 『大都市における地域組織活動への取り組み（第5報）機能訓練教育の取り組み』 32巻10号 P.98 1985年
- 高橋浜子 『住民を主体とした「地域健康づくり事業」の展開について』 33巻10号 P.70 1986年
- 堀田美波 『母親の育児していく力の形成と組織活動（第1報）取り組みの経過』 34巻10号 P.156 1987年
- 赤部智子 『母親の育児していく力の形成と組織活動（第2報）母親の育児力形成をめざした家庭訪問』 34巻10号 P.157 1987年
- 西村京子 『母親の育児していく力の形成と組織活動（第3報）母親の動きが起こり始めた「母親の集まり」』 34巻10号 P.158 1987年
- 古田真司 『母親の育児していく力の形成と組織活動（第4報）住民をとりまく関連機関や住民組織への働きかけ』 34巻10号 P.159 1987年
- 大西浩人 『出雲保健所における地区組織活動の視点』 34巻10号 P.181 1987年
- 岸本泰子 『出雲保健所における地区組織活動の成果』 34巻10号 P.182 1987年
- 春名由一郎 『地域ケア活動のための人づくりと組織づくりに関する検討—日野市の中間施設におけるボランティア活動を素材として—』 34巻10号 P.209 1987年
- 平山朝子 『わが国の保健婦の役割』 35巻01号 P.3 1988年
- 館ヒロ子 『「新しい生命のための学級から」から地域の仲間づくりへ（第2報）子育ての仲間づくりへのとりくみ』 35巻08号 P.5 1988年
- 金子敬子 『日常的な役割、課題のない老人患者のケアの試み（その2）通院老人患者会（若返り会）の活動と患者の変化』 35巻08号 P.8 1988年
- 中野信子 『母子保健地域組織活動育成と保健婦活動』 35巻08号 P.10 1988年

*** 雑誌 ***

雑誌名 日本公衆衛生雑誌

- 中村恭美 『住民主体の組織づくりのころみ』 35巻08号 P.83 1988年
- 岡田ひろみ 他 『健康づくりに於ける地域活動(その2) 地域への広がり』 36巻10号 P.51 1989
- 高木洋子 『在宅栄養士の育成-地域活動のための組織づくり-』 36巻10号 P.159 1989年
- 宇田英典 他 『自主学習会「寝たきり老人の訪問看護を考える会」の経過からみた自主グループ育成に関する一考察』 36巻10号 P.161 1989年
- 中尾恵子 『住民が主体的に参加した成人病予防グループ学習の報告-都市中心部での取り組み-』 36巻10号 P.237 1989年
- 明星静香 他 『地域保健活動からめざめた自主組織への動き-動機、組織結成、活動展開-』 36巻10号 P.245 1989年
- 末成 薫 他 『既存組織を活用した健康づくり運動の展開』 36巻10号 P.247 1989年
- 赤木清美 他 『高齢者ヘルスポランティア活動-ポランティア養成とその活動状況-』 36巻10号 P.248 1989年
- 日高照美 他 『老人を支える組織づくり-ひとりぐらし老人友の会の発足まで-』 36巻10号 P.251 1989年
- 藤岡久代 他 『母子保健活動の中でグループ活動の果たす役割を考える』 36巻10号 P.549 1989

雑誌名 公衆衛生

- 石垣純二 『源村に保健文化賞（第2回）－山梨県の寒村を尋ねて－』 09巻02号 P.23-25 1951年
- 梶山 勲 『衛生村の話』 09巻02号 P.39-40 1973年
- 橋本正己 『保健所におけるCommunity Organizationについて』 11巻02号 P.47 1952年
- 岩崎辻男 『愛育委員』 12巻02号 P.32-33 1952年
- 宮坂忠夫 『地区衛生組織について』 20巻05号 P.17-22 1956年
- 小川一郎 『衛生モデル地区の主婦たち－保健教育の媒体についての考察－』 20巻05号 P.29-32 1956年
- 柴山知輝, 若林 登 『家族計画と地区組織活動』 21巻04号 P.23-27 1957年
- 広瀬 興 『母子衛生を主とする地域組織（愛育村）について』 22巻03号 P.23-26 1958年
- 浜口綱一 『地区婦人組織を基盤とした公衆衛生活動の発展過程について』 22巻08号 P.44-47 1958年
- 橋本正己 『地区組織活動の沿革と動向』 22巻11号 P. 1958年
- 宮坂忠夫 『米国における地区組織活動』 22巻11号 P.9-12 1958年
- 大鶴正満 『中共の地区組織活動－カ・ハエの撲滅運動から－』 22巻11号 P.13-16 1958年
- 柏熊岬二 『地区衛生組織の社会学的分析の一事例－金子村の調査より－』 22巻11号 P.17-26 1958年
- 宮坂, 橋本 他 『＜対談＞地区組織活動について』 22巻12号 P.12-21 1958年
- 鈴木 猛 『地区組織活動の技術』 22巻12号 P. 1958年
- 助言者：大志万準治, 辻美恵子, 重田信一, 宮坂忠夫, 橋本正己 『地区衛生組織活動（その1）－農村における地区衛生組織活動を中心として－』 23巻01号 P.83-91 1959年
- 宮原精二 『＜事例発表1＞地区組織における衛生教育活動について』 23巻01号 P.83-84 1959年
- 大田 馨 『＜事例発表2＞保健所管内の地区組織活動の育成について』 23巻01号 P.84- 1959年
- 徳田正敏 『＜事例発表3＞母子愛育村育成経過について（農村における地区組織活動を中心として）』 23巻01号 P.85-86 1959年
- 安東 晃 『＜事例発表4＞広島県松永市における民衆組織の育成について－主として環境衛生改善事業』 23巻01号 P.86-87 1959年
- 円山楨雄 『＜事例発表5＞余等の所謂“住民一斉健診”による地区組織活動の育成について』 23巻01号 P.87-88 1959年
- 助言者：三浦英夫, 橋本正己, 宮坂忠夫 『地区衛生組織活動（その2）－都市における地区組織活動を中心として－』 23巻01号 P.92-96 1959年

雑誌名 公衆衛生

- 松浦利次 『＜事例発表1＞保健所管内の地区組織』 23巻01号 P.92-93 1959年
- 山田秀一 『＜事例発表2＞都市における地区組織活動』 23巻01号 P.93- 1959年
- 伊達富久 『＜事例発表3＞管内愛育委員活動（都市における地区組織活動を中心として）』 23巻01号 P.94 1959年
- 花田完五 『＜事例発表4＞都市における地区組織活動の諸問題』 23巻01号 P.94 1959年
- 牧 賢一 『コミュニティ・オーガニゼーションの理論について－保健福祉地区組織活動を進めるために－』 23巻09号 P.1-6 1959年
- 黒木利克 『育成協の社会的役割－保健福祉地区組織育成中央協議会－』 23巻09号 P.7-11 1959年
- 小林浩一郎 『大都市における地区衛生組織について－本運動を阻むものの解明と対策への方向づけ－』 24巻04号 P.7-15 1960年
- 重田信一 『保健福祉地区組織活動－特に社会福祉からみて－』 24巻04号 P.1-6 1960年
- 浜口剛一 『もっとボランティア活動を』 27巻07号 P.49-50 1963年
- 青山英康 『都市型保健所の地区組織活動』 27巻10号 P.6-15 1963年
- 青井和夫 他 『地区組織について－地域開発の進捗と保健衛生－』 28巻01号 P.13-17 1964年
- 村中俊明 『みんなのコミュニティに対する意識を』 28巻07号 P.4-7 1964年
- 須川 豊 『蚊とハエのいない生活運動の評価と今後の方向（行政面より）－理念の確立と制度化－』 28巻07号 P.8-11 1964年
- 吉本静夫 『行政面より地区組織活動による衛生害虫駆除』 28巻07号 P.11-13 1964年
- 大利茂久 『行政面より長崎市における地区組織活動の一例－便池の集団殺蛆事業－』 28巻07号 P.13-15 1964年
- 小山寛二郎 『行政面より東京都における地区組織活動の蚊とハエ駆除』 28巻07号 P.15- 1964年
- 青山英康 『地区衛生組織の再検討』 28巻11号 P.10-17 1964年
- 橋本正己 『組織活動発生の生物的原理』 30巻04号 P.1 1966年
- 松原治郎, 奥田道大, 橋本正己, 山下 章 『＜座談会＞地区組織活動を再検討する』 30巻04号 P.18 1966年
- 武田 卯 『新しい郷土づくりと地区組織活動－10年以上続く住みよい郷土建設運動－』 30巻04号 P.2-7 1966年
- 永田幹夫 『地区組織活動の課題と展望－社会変動の中で生きた活動となるためのビジョン－』 30巻04号 P.8-12 1966年

雑誌名 公衆衛生

中川和子 『地区衛生組織活動の特性と行政の接点—主婦達の手で作った自主活動を通じて得た成果—』 30巻04号 P.13- 1966年

『アンケート A.現状の地区組織活動についてどのように考え、どのような点に問題点があると考えるか』 30巻04号 P.29- 1966年

『アンケート B.今後はいかなる点に目を向け、どのように発展させるべきか』 30巻04号 P.29- 1966年

山下 章 『資料 地区組織への住民の指向に関する調査』 30巻04号 P.51-52 1966年

相磯富士雄 『食生活改善運動と地区組織活動』 31巻03号 P.23-30 1967年

難波三郎 『岡山県の栄養改善事業の歩み—都窪郡清音村の地区組織活動を中心として—』 31巻03号 P.26-30 1967年

橋本 博 『大都市における地区衛生組織活動の展開とそれに伴う諸問題（事例）』 32巻08号 P.30-36 1968年

園田恭一 『都市生活とコミュニティ』 32巻08号 P.4-10 1968年

磯村英一 『都市生活とコミュニティ』 32巻08号 P.2-3 1968年

青山英康, 五島正規, 柳 稔 翼 『住民運動と公衆衛生活動従事者の役割』 34巻01号 P.17- 1970

安部弘毅 『公衆衛生は地区組織活動の核心』 34巻01号 P.1- 1970年

M. K 『岐阜市北保健所管内の地区組織希望の2年目を迎える』 34巻07号 P.11 1970年

大映美代志 『保健補導員組織との連携による健康対策事業の推進』 34巻08号 P.50-55 1970年

園田恭一 『自主活動に支えられた地域保健活動—岡山県山陽町—』 34巻10号 P.42-46 1970年

庄司 光, 水野 洋 『住民運動における医療従事者の役割』 34巻12号 P.18- 1970年

三沢博人 『市町村を主体とした地域保健活動』 35巻03号 P.173-177 1971年

橋本善彦 『特集：コミュニティケア 衛生教育とコミュニティケア』 36巻10号 P.643-646 1972

田中豊穂 『地方自治体と住民運動』 37巻12号 P.818-820 1973年

岡田尚久 『地区衛生組織活動と保健従事者の役割』 38巻03号 P.146-150 1974年

安倍三史 他 『特集：地域住民と環境保健』 39巻03号 P.124-171 1975年

横浜孝子 『地域組織の連携による脳卒中患者の把握と追跡指導の試みから』 39巻05号 P.290-296 1975年

雑誌名 公衆衛生

- 佐久間淳 『地域保健の組織化をめぐる基本的問題－医療社会学的アプローチを中心に－』 39巻05号 P.313-319 1975年
- 小倉謙介 『民生委員と地域精神衛生』 39巻11号 P.784-789 1975年
- 飯沼 伝 『住民の健康は保健衛生教育の体制づくりから』 40巻06号 P.418-422 1976年
- 嶋田マスエ 『ボランティアによる地域衛生活動』 40巻06号 P.423-425 1976年
- 田中恒男 他 『特集：地域保健医療計画への住民参加』 41巻02号 P.84-130 1977年
- 桑名忠夫 『信愛病院における脳卒中予防の地域活動について－地域ボランティア育成の重要性とその役割－』 41巻09号 P.630-635 1977年
- 吉沢国雄 『地域ぐるみの予防活動(2)住民参加の脳卒中予防活動』 42巻02号 P.117-121 1978年
- 橋本正己 他 『特集：新しいヘルス・ボランティア』 42巻06号 P.356-390 1978年
- 木谷宜弘 『在宅老人福祉とボランティア活動』 42巻09号 P.580-585 1978年
- 佐久間淳 他 『第19回社会医学研究会記録：保健医療従事者の役割と住民参加のあり方をめぐって（演題12-17）』 42巻12号 P.775-780 1978年
- 豊川裕之 『小さなコミュニティにおける公衆衛生活動の問題点と今後の展望』 43巻12号 P.76-81 1979年
- 高木寛治 他 『特集：グループワーク グループワークからみた保健所と断酒会－津山断酒新生会の事例－ 他』 45巻08号 P.619-639 1981年
- 増田陸郎 『保健所における断酒学級－10年総括から－』 46巻11号 P.782-787 1982年
- 堤 隆信 『ヘルス・ボランティア活動の育成とその役割に関する研究報告書について』 47巻05号 P.314-328 1983年
- 宮坂忠夫 他 『特集：住民参加と市町村保健』 47巻11号 P.692-769 1983年
- 桜井 猛 『社協、病院、保健所、福祉施設のネットワークづくり』 48巻02号 P.135-141 1984年
- 森 法房 『精神衛生ボランティア活動の組織化』 48巻03号 P.210-216 1984年
- 佐藤貞良 『ひとり暮らし老人の会と保健福祉サービス』 48巻05号 P.371-376 1984年
- 松田 泰 『中途障害者の仲間づくりと医療保健福祉の接点を探る試みの中で－脳血管疾患による中途障害者の組織化の経験から－』 48巻06号 P.447-454 1984年
- 徳久和彦 『小地域におけるコミュニティ・ケア』 48巻07号 P.516-522 1984年
- 石黒チイ子 『ボランティアによる地域福祉活動』 48巻11号 P.788-793 1984年
- 岡 知史 『欧米におけるセルフヘルプグループ－そのケアをめぐる考察－』 49巻06号 P.387-391 1985年

*** 雑誌 ***

雑誌名 公衆衛生

- 持田兆子 『地域保健へのかかわり－愛育班の組織活動を通じて－』 50巻02号 P.101-106 1986年
- 岡村重夫 他 『特集：新しい地域活動の展開を求めて－コミュニティワーク 他－』 50巻07号 P.436-474 1986年
- 藤林千春, 朝倉新太郎 『地域における保健医療福祉サービスの組織的展開－高齢者の在宅ケアをめぐる－』 50巻09号 P.605-610 1986年
- 倉沢 進 『高齢者の市民的自立とコミュニティ』 50巻09号 P.611-614 1986年
- 佐藤 智 他 『特集：保健医療のボランティア活動 ボランティア活動を育てるもの 他』 50巻10号 P.644-688 1986年
- 西崎富江 『食生活指導の実際 岡山県栄養改善協議会の活動』 52巻07号 P.463-465 1988年
- 黒沢千鶴子 『十文字町の食生活改善活動』 52巻07号 P.453-454 1988年
- 中島幸枝 『村ぐるみの健康管理活動に取り組んで』 53巻01号 P.39-41 1989年
- 大西浩人, 牧野由美子 『成人病の予防－住民の生活改善の実現を求めて－』 53巻04号 P.234-238 1989年
- 鎌田正子 『宮城県食生活改善推進員連絡協議会の活動』 53巻08号 P.552-555 1989年
- 戸川幸子 他 『シンポジウム：高齢化社会における保健医療福祉の連携を考える－長崎厳原町－』 53巻09号 P.625-631 1989年
- 赤羽尚子 『栄養士の地域保健活動から』 53巻10号 P.708-710 1989年
- 町野 宏, 寺島千鶴 『当事者、家族にとっての在宅ケアと施設ケア－介護者（家族）の会にかかわって－』 53巻11号 P.743-747 1989年

雑誌名 公衆衛生情報

- 堤 隆信 『山陽町における地域保健活動』 01巻01号 P. 1971年
- 小見山茂人 『団地に対する保健所活動』 01巻01号 P.32-35 1971年
- 上田修示 『精神衛生の家族会活動』 01巻04号 P.21-25 1971年
- 福山 博, はやし秀 『開拓地における保健予防活動と地区衛生組織活動』 01巻07号 P. 1971年
- 吉良英一 『町ぐるみの総合保健活動』 01巻07号 P. 1971年
- 『ルポ: 対人保健サービスを基盤とした松橋保健所の活動』 01巻08号 P.25-29 1971年
- 細川昌義 『山南町の総合保健衛生活動』 01巻08号 P.30-33 1971年
- 坂下達男 『公害追放運動』 02巻01号 P.26-29 1972年
- 『ルポ: 自治会のはたらきを見直そう』 02巻01号 P.24-25 1972年
- 小栗史郎 『名古屋駅地下街の衛生状況と対策-組織活動を中心に-』 02巻03号 P.28-31 1972
- 佐々木幸男 『母子健康センターの活動』 02巻03号 P.24-27 1972年
- 松浦利次, はやし秀 『村づくり・人づくり』 02巻04号 P. 1972年
- 五十嵐康雄 『地域公衆衛生活動の媒体としての結核住民検診』 02巻05号 P. 1972年
- 小林育雄 『幼児とその母親に対する精神衛生保健活動のこころみ-三歳児健診精神衛生相談と母子のクリニッカー』 02巻06号 P.26-29 1972年
- 沢崎嘉衛, はやし秀 『組織活動ひとすじ』 02巻07号 P.7- 1972年
- 大峽美代志 『地区組織との連携による保健活動』 02巻07号 P.26- 1972年
- 鶴田 武 『婦人会を対象とした衛生教育』 02巻08号 P.28-31 1972年
- 柳井 勉 『施設理念と住民の協力 新しい施策をめぐって』 02巻09号 P.31-35 1972年
- 松本征八 『地域精神衛生活動の一環としての精神障害者家族教室のこころみ』 02巻10号 P.20-22 1972年
- 藤掛英夫 『地域住民の保健衛生』 02巻12号 P.26-29 1972年
- 須川 豊 『地域保健計画』 03巻05号 P. 1973年
- 川俣瑞男 『保健所を中心とする総合的公衆衛生活動-健康感謝の日をめぐって-』 03巻05号 P. 1973年
- 額田 要 『健康を基盤としての地区組織活動-栄養改善を主体として-』 03巻06号 P.26-29 1973年

*** 雑誌 ***

雑誌名 公衆衛生情報

- 『農民の健康管理活動と衛生教育－国見町山の上地区の事例－』 03巻07号 P.24-25 1973年
- 田比スマ子 『地区組織の中で始めた安武町成人相談会』 03巻12号 P.24-25 1973年
- 青山 清 『地区組織活動で進めた成人病対策の試み』 04巻04号 P.32-35 1974年
- 増田陸郎 『アルコール中毒断酒学校の試み』 04巻10号 P.30-32 1974年
- 伊藤 昭, 大和田国夫 『都島区における保健所および民生委員による地域保健活動』 04巻12号 P.23 1974年
- 重松南生子, 植田美都子 『地域における精神衛生活動の展開』 05巻02号 P.28-31 1975年
- 『農協婦人部および地域婦人会を対象とした健康学級活動』 05巻08号 P.12-13 1975年
- 時任直人 『地域保健活動と地区組織活動』 06巻01号 P.2 1976年
- 大西光明 『へき地住民の健康管理対策－小田町立石地区－』 07巻06号 P.21 1977年
- 青木秀信 『教育バスによる移動衛生教室』 07巻08号 P.32-33 1977年
- 福原照明 『広島県下の地域保健体制』 08巻03号 P. 1978年
- 赤坂定康 『松尾村における母子歯科保健活動－乳幼児の歯科疾患調査について－』 08巻04号 P. 1978年
- 『農村婦人の健康管理活動の育成』 08巻07号 P. 1978年
- 『地域住民による健康づくり推進活動』 08巻07号 P. 1978年
- 『食品交換表による減塩運動－高血圧・脳卒中の予防は減塩から－』 08巻07号 P. 1978年
- 『住民主体の地域保健活動』 08巻07号 P. 1978年
- 梅原雄一, 橋本正己, 本城明朗, 荻野淑郎 『座談会：地区組織活動』 08巻09号 P.12-21 1978年
- 島田 晋 他 『地域における対人保健サービスの体制整備に関する研究』 09巻08号 P.34-42 1979年
- 上条好一 『ボランティア活動－いわゆる老人とのかかわりあいにおいて－』 09巻08号 P.10-11 1979年
- 乙倉 巍, 島田 晋, 関野善之, 松田 朗 『座談会：地域における対人保健サービスの体制整備に関する研究』 09巻09号 P.12-22 1979年
- 大坂多恵子 『座談会：健康教育と地域組織活動の育成から』 09巻10号 P.15-21 1979年
- 副田義也 『コミュニティケアの考え方』 09巻10号 P.4-14 1979年
- 坂本佐喜子 『精神障害者ソーシャルクラブ活動の実践』 10巻02号 P.23-27 1980年

雑誌名 公衆衛生情報

- 渡辺博史 『コミュニティ形成と住民参加-①』 10巻09号 P.10-13 1980年
- 中村美代子 『健康は自らの手でつくる-若松地区健康グループ-』 10巻09号 P.32-37 1980年
- 渡辺博史 『地域組織活動の経営と実践-②』 10巻10号 P.9-12 1980年
- 渡辺博史 『地域組織活動の点検と評価-③』 10巻11号 P.10-13 1980年
- 『住民参加による学級企画の取り組み』 11巻11号 P.26-28 1981年
- 鷺田ゆり子 『自主的な衛生教育活動の育成-松原食生活改善研究同好会の活動について-』 11巻11号 P.22-25 1981年
- 中越順市 『へき地における保健衛生地区組織活動』 11巻12号 P.28-31 1981年
- 寺尾亨二 『ポルノ産業追放・住民運動へ』 12巻06号 P.2 1982年
- 鳩見貞子 『地区組織を中核とした減塩指導の試み』 12巻07号 P.26-29 1982年
- 横越太美雄 『地域に根ざす健康管理推進運動』 12巻08号 P.28-31 1982年
- 野沢秀子 『保健ステーションにおける地域保健活動-神奈川県中井保健ステーション-』 13巻10号 P.29-33 1983年
- 瀧 利通 『家庭婦人による公衆衛生調査研究のこころみ』 14巻04号 P.26-37 1984年
- 吉田典子 『地域における高齢者の健康づくり 高齢者健康教室を開設して』 14巻08号 P.9-13 1984年
- 池脇政子 『健康劇を通じ「みんなで老人保健を考えよう」』 14巻08号 P.14-16 1984年
- 小見山茂人 『保健所を中核とした地域保健活動-ソーシャル・クラブ活動-』 15巻01号 P.8-14 1985年
- 演者：大谷藤郎，黒岩卓夫，森幹郎；座長：湯沢布矢子 『あすの地域活動をさぐる<その1>-保健・医療・福祉のネットワークづくりを考える-』 15巻01号 P.26-36 1985年
- 演者：大谷藤郎，黒岩卓夫，森幹郎；座長：湯沢布矢子 『あすの地域活動をさぐる<その2>-保健・医療・福祉のネットワークづくりを考える-』 15巻02号 P.26-35 1985年
- 宮崎豊子 『母子愛育班活動と保健婦-町と保健所保健婦の後ろ姿より-』 15巻02号 P.3 1985年
- 角 忠明 他 『保健所を中核とした地域保健活動-糖尿病教室（柴田方式）について-』 15巻03号 P.9-13 1985年
- 小野寺伸夫 『地域保健のめざすもの』 15巻08号 P.32-40 1985年
- 杉浦芳子 『地域に根ざす活動をめざして』 15巻10号 P.3 1985年
- 村上泰邦，木津昌子 『地域保健推進事業における衛生教育活動』 15巻10号 P.27-29 1985年

*** 雑誌 ***

雑誌名 公衆衛生情報

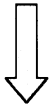
- 柳井 勉 『市町村保健センターと地域保健活動－現状を見据えて－』 15巻12号 P.24-27 1985年
- 叶谷昌江, 和田明美 『健康づくり地域活動 地域に根ざした健康活動について』 16巻01号 P.15-19 1986年
- 『都市の母子保健の現状と今後の課題』 16巻08号 P.40-43 1986年
- 須川 豊, 小野寺伸夫 『戦後の公衆衛生の歴史：環境問題と民間公衆衛生活動』 16巻09号 P.23-27 1986年
- 小山久子 『村ぐるみのむし歯予防啓蒙普及活動の展開－保健婦活動を主軸とした－』 16巻11号 P.19-21 1986年
- 石川弘彦 『ニューメディア・コミュニティ構想』 17巻03号 P. 1987年
- 鈴木春美, 坪井喜美子 『新しい健康づくり グループの育成－若い主婦層を対象に－』 18巻04号 P. 1988年
- 黒沢邦子 『ヤング・ファミリー・クラス（父親教室）と同窓会活動』 18巻09号 P. 1988年
- 『県民の健康づくりに関する意識の現状と今後のボランティア活動』 19巻10号 P. 1989年

*** 単行本 ***

- 青井和夫, 小倉 学, 柏熊岬二, 宮坂忠夫著 『コミュニティ・アプローチの理論と技法ー地区保健福祉計画の手引ー』 續文堂 1963年
- 地方自治制度研究会編著 『コミュニティ読本』 帝国地方行政学会 1973年
- 地方自治制度研究会編著 『新コミュニティ読本』 ぎょうせい 1977年
- Community Organization研究会著 『保健福祉の領域におけるコミュニティ・オーガニゼーションに関する研究 第3次報告書』 地域社会研究所 1976年
- ディリス・M・ヒル(横山桂次, 吉塚 徹 訳)著 『市民参加と地域政治』 福村出版 1973年
- 原田正二著 『地域組織活動と広報』 全国社会福祉協議会 1971年
- 原田正二著 『地域社会と組織活動』 恩賜財団母子愛育会 1976年
- 橋本正己著 『公衆衛生と組織活動』 誠信書房 1955年
- 橋本正己著 『地域保健活動』 医学書院 1968年
- 橋本正己, 原田正二編著 『地区衛生組織活動の手引ー用語集ー』 全国地区衛生組織連合会 1967年
- 橋本正己著 『保健活動の動向と課題』 医学書院 1975年
- 橋本正己, 三浦文夫編著 『地域活動論ー保健と福祉のコミュニティ・ワーカー』 全国社会福祉協議会 1973年
- 橋本正己, 三浦文夫編著 『地域活動の方法』 全国社会福祉協議会 1973年
- 蓮見音彦, 倉沢進, 奥田道大, 平野秀秋, 吉田裕, 石川晃弘編著 『社会学セミナー2 地域産業』 有斐閣 1972年
- 久常節子著 『住民自身のリーダーシップ』 勁草書房 1987年
- 保健福祉地区組織育成中央協議会編著 『まちづくりの原理ーコミュニティ・オーガニゼーションー』 保健福祉地区組織育成中央協議会 1963年
- 自治大学校研究部編著 『地方公務員セミナー 住民参加と行政』 第一法規出版 1976年
- 勝沼晴雄, 宮坂忠夫編著 『健康管理シリーズ13: 健康相談・衛生教育』 医歯薬出版 1964年
- 勝沼晴雄監修, 宮坂忠夫, 小倉 学編著 『新編健康管理シリーズ12: 健康教育』 医歯薬出版 1973年
- 神戸市都市問題研究所編著 『地域住民組織の実態分析』 勁草書房 1980年
- マレー・ロス(岡村重夫)著 『コミュニティ・オーガニゼーションー理論, 原則, 実際ー』 全国社会福祉協議会 1968年
- マーガレット・ミード, ムニエル・ブラウン著 『コミュニティーその理想と現実ー』 北望社 1970年

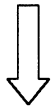
*** 単行本 ***

- 牧 賢一著 『コミュニティ・オーガニゼーション理論』 全国社会福祉協議会 年
- 牧 賢一著 『コミュニティ・オーガニゼーション概論－地区組織活動の理論と実際－』 全国社会福祉協議会 1969年
- 丸地信弘著 『保健活動<見直し>の理論と実際』 医学書院 1981年
- 松原治郎編著 『現代のエスプリ68-3「コミュニティ」』 至文堂 1973年
- 松原治郎, 山本英治編著 『現代のエスプリ93-4「住民運動」』 至文堂 1975年
- 松下圭一編著 『現代に生きる6: 市民参加』 東洋経済新報社 1971年
- 松下 拡著 『健康問題と住民の組織活動』 勁草書房 1981年
- 松下 拡著 『健康学習とその展開』 勁草書房 1990年
- 宮坂忠夫著 『衛生教育』 續文堂 1958年
- 宮坂忠夫, 林 秀著 『衛生教育テキスト(改訂第2版)』 日本公衆衛生協会 1975年
- 宮坂忠夫編著 『講座現代と健康別巻3: 福祉と健康』 大修館書店 1978年
- 宮坂忠夫著 『地域保健と住民参加』 第一出版 1983年
- 宮坂忠夫, 川田智恵子著 『最新保健学7: 健康教育論』 メヂカルフレンド社 1984年
- 中村八朗著 『有斐閣双書 都市コミュニティの社会学』 有斐閣 1973年
- 日本社会事業学校連盟著 『住民主体の地域組織活動』 全国社会福祉協議会 年
- 岡田 真著 『コミュニティ・ワーク論』 大明堂 1981年
- 奥田道大 他著 『コミュニティの社会設計』 有斐閣 1982年
- 大阪ボランティア協会編著 『ボランティア』 ミネルヴァ書房 1981年
- 市町村自治研究会編著 『新しい生活圏行政－広域市町村圏の現状－』 ぎょうせい 1975年
- 副田義也著 『コミュニティ・オーガニゼーション』 誠信書房 1968年
- 園田恭一著 『地域社会論』 日本評論社 1969年



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:

「<健康概念の拡大 と<生活の質>を重視した地域組織活動は可能か」という問題意識に基づき、初年度は「地域組織活動の活性化と強化のための基本原則」を明らかにすることを目的とし、文献考証を行った。その結果、次のような基本原則が明らかになった。1)共同性をつくる活動を展開すること 2)自発性を重んじること 3)自前主義に徹すること 4)心触れあう付き合いの場をつくること 5)不思議な鍵(コミュニティの連帯)を見つけること 6)根回しと念押しの技術を習得すること。

今後は、特に<こころ>と<生活の質>を中心とした母子保健に関わる健康問題を地域組織活動を通して解決してゆくための方法を導くために、1)地域組織活動の活性化のための要因分析と、2)地域組織活動の強化方法の開発の研究に取り組む予定である。